

## 漁環境の最善化と漁業の活性化を目指す



### CONTENTS

#### FISHING POLITICS

漁政

沿岸くろまぐろ漁業の届出制導入に係わる説明会

平成23年度シーフード料理コンクール

平成23年度日向灘掃海訓練

水産振興大会運営委員会について

全近かつ協バリ島視察について

平成23年9月属人水揚げ表

#### BUSINESS

業務情報

宮崎海洋高等学校実習船「進洋丸」出港式

内部石油・資材・製氷担当者会議

おさかな供養祭

#### FISHERIES GO-OPERATIVE

漁連情報

第2回監事会

平成23年度上半期監査計画書

#### FISHERIES EXPERIMENT

水産試験場

「みやざき丸」情報について  
-研究企画-

リッテルボヤのリッテルは  
どんな意味ですか？

9月の動き(県関係)

#### RELATED ORGANIZATION

関係機関

漁船セーフティラーリー南九州2011

平成23年度宮崎県藻場干潟等  
保全地域協議会通常総会

平成23年度  
宮崎県定置漁業協会通常総会

全近かつ・まぐろ問題検討会について

宮崎県旋網漁業組合第3回役員会

9月の動き

水産宮崎ダウンロードサービス

※必要な方はコチラから A4 サイズで出力出来ます。

## 沿岸くろまぐろ漁業の届出制導入に係る説明会

9 月16日(金)水産会館5階大研修室において、沿岸くろまぐろ漁業の届出制導入に係る説明会が行われた。平成24年7月1日以降「太平洋海域でくろまぐろをとることを目的とする漁業を営もうとする者」は、水産庁への届出が必要となる。また、くろまぐろの漁獲実績を、毎年翌年度の1月31日までに提出することが必要とのことであった。

## 平成 23 年度シーフード料理コンクール



9 月20日、水産会館4階において平成23年度シーフード料理コンクールを開催した。175点の作品の中から書類審査で選ばれた高校生・専門学校生・一般の8名が50分の調理時間の中で“お魚料理で元気になろう！”をテーマに自慢の一品を披露した。実技の後、試食審査が行われ、下記の通り受賞者が決定した。優秀賞・最優秀賞の2作品は12月に東京で開催される第12回シーフード料理コンクールへ推薦することとなった。

県知事賞(最優秀賞)	
ゴマをまとったマグロのソテー アジアテイスト	
延岡学園高等学校	井本優香
<a href="#">レシピはコチラ</a>	
県漁連会長賞(優秀賞)	
カツオ アボカドの和ライスバーガー	
都城東高等学校	下川 ゆかり
<a href="#">レシピはコチラ</a>	
おさかな普及協議会連合会長賞	
シイラのお茶風味フリット ～トマトソース添え～	
宮崎調理製菓専門学校	岩倉 陽佑
信漁連会長賞	
冷汁風ヘルシーカツスパ	
日南学園高等学校	荒川 有香

共済組合長賞	
薄焼き卵でブリ春巻き	
宮崎調理製菓専門学校	寺前 ゆかり
JF共済推進本部長賞	
トマト畑のアジーなコンコン	
一般応募	大辻 ふみ子
漁船保険組合長賞	
イタリア風鯛と野菜のゆず風味煮	
都城泉ヶ丘高等学校	清水 紗由佳
基金協会理事長賞	
しいらのかぼちゃ入り梅みそソースかけ	
都城泉ヶ丘高等学校	原田 有彩

(レシピはコチラをクリックするとレシピが表示されます。)



## 掃海訓練実施のお知らせ

平成23年度日向灘掃海訓練は下記の通り実施されることとなった。

日向灘で次のとおり掃海訓練を実施しますので、同海域付近を航行する船舶は十分注意して下さい。

### 1.期間

平成23年11月10日(木)から11月20日(日)まで(昼夜問わず)

### 2.海域

次の各点で囲まれる海域

点	緯度 経度	世界測地系
1	北緯	31度42分48秒
	東経	131度29分36秒
2	北緯	31度32分42秒
	東経	131度28分36秒
3	北緯	31度31分18秒
	東経	131度38分24秒
4	北緯	31度41分06秒
	東経	131度40分18秒

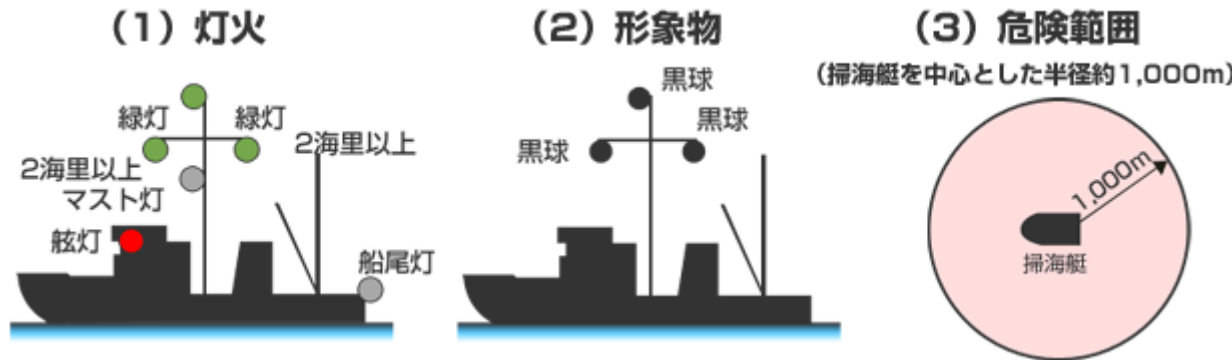


### 3.訓練内容

掃海艦艇による掃海訓練等

### 4.灯火及び形象物等

海上衝突予防法に定められた次の灯火及び形象物を掲示し掃海訓練を実施します。



5.訓練海域付近には警戒艦艇を配備します。

### 6.問合わせ先

九州防衛局	(092) 483-8819 (内線668)
宮崎防衛事務所	(0985) 54-1658
海上自衛隊呉地方総監部	(0823) 22-5511 (内線2222)

## 水産振興大会運営委員会について

10月13日(木)水産会館4階第1研修室において、平成23年度宮崎県水産振興大会運営委員会が行われた。議案は次のとおりで、本年度の水産振興大会は、11月12日(土)に水産会館で行われることを決定した。

(1)宮崎県水産振興大会開催計画について	(3)宮崎県水産功労者表彰の審査について
(2)宮崎県水産業優良経営者の報告について	(4)その他

## 全近かつ協バリ島視察について

**全** 国近海かつお・まぐろ漁業協会(会長 三鬼則行)は、平成23年9月26日(火)～30日(金)までの5日間、当協会が主催する漁船マルシッパ制度対策協議会のインドネシア開催に伴いバリ島を訪れた。全近かつ関係者11名(本県からは2名)が参加した。

今回の視察は、まぐろ延縄漁業の水揚地であるバリ島ベノア港を訪れ、インドネシア船員の乗船経験等の内容把握や現地関係者と意見交換を行った。

### 9月28日(水)ベノア港視察及び船員との意見交換

ベノア港はバリ島唯一のまぐろ延縄漁業の水揚地であり、当日は晴天に恵まれ、近海で獲れたまぐろ類(本マグロ、メバチ、キハダ、ピンチョ)等の水揚げを視察することが出来た。

各船のまぐろの取り扱いはあまり丁寧ではなく、炎天下の中、氷もあまり効いてない状態で水揚げされ、道を隔てて隣接する水産会社に運ばれ、氷詰めの後カナダ、日本他に空輸されるとのことであった。

当港では水産会社が10社あり、企業が有するまぐろ船が操業を行い、入港するまぐろ船は約450隻、56トン船が多く、25メートルの枝縄に針が1,200本、餌は、イワシ、ムロ、イカ、主な操業場所はインド洋、バリ島北側であり、漁が終わればすぐに帰港するのではなく、洋上で運搬船に荷を乗せ替える船もあるとのことであった。

場所を移動し、航洋関係会社の現地マンニング会社マップ社で育成している船員から操業内容等について意見交換を行った。

5名の船員は、今年水産学校を卒業、56トン、サムドラ丸に乗船したとのことであった。

12名の船員で6名×2班でワッチを組み、投げ縄を7時～12時まで行い、揚げ縄を14時から明け方5時までの操業。

食事は、6時30分ーパン、8時ーライス、14時ーライス、20時ーライス、揚げ縄終了後ーラーメン。食事にかかる費用は1日1名約220円。

船からの支給品は手袋、長靴、カッパ、嗜好品については自腹。

5名の内4名は1日に準備を含めて10分×5回お祈りをし、1名は全くしない。ラマダン時期も操業する。

マップ社では、6ヶ月まぐろ延縄漁船に船員として乗船させ、終了した者の中からジャカルタ近郊のバンドンで6ヶ月の日本語研修を行いながら派遣待機するとのことであった。



### 29日(木)現地関係者と意見交換

現地マンニング会社

三高水産(エサ・ナガ、セカイ・ヒカリ) 航洋(マップ)

ヌサントラ(ホトジマ・ツナ・インドネシア)

・漁船マルシッパ制度は、日本のまぐろ延縄船操業になくはない制度になっていることは、全ての関係者が理解しているところである。

しかしながら、近年、船主、マンニング会社、マルシッパ船員に様々な意見の相違がみられ、色々な事件も発生している。

現地のマルシッパ関係者を交えて、この制度が将来に渡り使えるように意見交換を行った。



## 協議内容

- ・マルシップ船員と日本人船員とコミュニケーションについて。
- ・日本船に設置してある漁労機械の基本的な操作について。
- ・ロープの結びやスパイキー作業等の基本的な作業について。
- ・マルシップ船員の脱船逃亡について。

※ 外国人船員の質の低下や仕事へのなれ合い、日本人船員のコミュニケーション不足、差別、偏見、食事が不十分等立場によって様々な問題があるが、マルシップ制度により、まぐろ延縄船が成り立っていることは関係者一同理解していることであり、今後もこの様な会を増やし、業界一体となって連絡協調を行い、この制度が存続出来るよう努力することで結んだ。

## 平成23年9月属人水揚げ表

漁協名\区分	9月分			9月末累計			昨年同月累計			増減		魚価対比 %
	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	
北浦	3,187	166,439	52	26,036	1,575,959	61	23,325	1,613,401	69	2,712	-37,443	-12.5
島浦町	1,081	115,311	107	8,617	1,229,265	143	8,887	1,321,564	149	-270	-92,300	-4.1
延岡	34	21,349	630	278	84,267	303	357	147,091	411	-80	-62,824	-26.3
延岡市	63	27,292	434	837	429,748	513	834	463,080	555	3	-33,332	-7.5
庵川	115	35,552	310	1,324	457,644	346	1,220	477,571	391	104	-19,927	-11.7
門川	19	12,526	656	358	178,467	498	445	229,204	516	-86	-50,737	-3.4
日向市	112	88,214	785	2,669	1,570,123	588	3,018	1,719,243	570	-348	-149,120	3.2
都農町	5	7,439	1,646	311	175,419	565	276	182,983	662	34	-7,563	-14.7
川南町	102	111,530	1,091	2,500	1,457,761	583	2,763	1,782,379	645	-263	-324,618	-9.6
一ツ瀬	8	6,163	749	123	83,789	682	118	80,230	680	5	3,559	0.2
檣浜	3	1,650	618	82	28,951	351	120	38,461	321	-37	-9,510	9.3
宮崎	54	32,327	596	831	307,926	370	1,014	344,520	340	-183	-36,594	9.1
宮崎市	55	64,066	1,159	626	337,847	540	603	328,886	546	23	8,961	-1.1
日南市	478	279,494	585	7,174	2,674,003	373	7,660	2,721,903	355	-487	-47,900	4.9
南郷	1,632	602,143	369	15,758	5,166,553	328	15,566	4,840,238	311	192	326,315	5.4
栄松	71	28,862	405	1,397	491,796	352	1,268	381,025	300	128	110,770	17.2
外浦	558	175,488	314	5,763	1,764,958	306	5,639	1,651,768	293	124	113,190	4.5
串間市東	51	24,918	489	1,214	383,227	316	1,005	401,059	399	209	-17,832	-20.9
串間市	330	184,386	558	4,652	2,668,888	574	4,302	2,542,529	591	350	126,359	-2.9
合計	7,959	1,985,151	249	80,550	21,066,590	262	78,419	21,267,135	271	2,131	-200,545	-3.6

端数処理の関係で、下1桁が合わない部分があります。

人と自然との調和

粒状粉石けん コンパクトタイプ

洗濯用液体石けん

# わかしお を使おう!

資材の購入はJFグループ(漁協・漁連・全漁連)へ

## 宮崎海洋高等学校実習船「進洋丸」出港式

**宮** 崎海洋高等学校実習船「進洋丸」は73日間の長期乗船実習の為に9月7日、ホノルル周辺海域のマグロ漁場に向けて宮崎港を出港した。当日は出港式が開催され、生徒や乗組員のご家族、関係者が多数出席し一時の別れを惜しみ、航海の安全を願った。今回の航海では、マグロ延縄漁業の操業実習、航海術・機関術等、試験調査を行うとともに、ハワイ・ホノルルの現地高校生との国際交流を予定している。進洋丸は、総トン数646トン、総乗組員数59名、船員21名、教官2名、生徒36名。なお、帰港式は11/18予定。



## 内部石油・資材・製氷担当者会議

**利** 用率の向上を目指す  
漁連は、平成23年度の系統利用率向上を目的に、資材9/6、石油9/9、製氷9/13の日程で本所会議室にて内部担当者会議を開催した。会議では、先ず本年度7月末現在の実績をもとに前年度実績、本年度計画との対比はもとより出席担当者から受け持ち地区の水揚げ操業状況等の報告も含め総合的に各事業の取扱状況を現状分析した。未利用の現状としては、価格面や供給体制など様々な要因があり、今後の推進策としては商品PRなどを展開し、各漁協担当者と連絡を密に取り合い、系統の取扱向上に努めていきたい。

## おさかな供養祭

**9** 月24日、宮崎おさかな普及協議会主催による「おさかな供養祭」が宮崎中央卸売市場において、市場長をはじめ開設者である宮崎市の担当者、行政機関から国土交通省 宮崎港湾・空港整備事務所長、県水産政策課長、生産者から近隣の漁協組合長他多数の来賓出席者のもと開催された。当供養祭は水産物への感謝とその冥福を祈るため毎年実施されているもので、当日は、神事を市場内の水産部セリ場内において行った後、宮崎港内に場所を移動し、「おさかな少年隊」の参加のもとマダイ稚魚等の放流を行い供養祭を無事終了した。



♪海とっしょに 浜とっしょに♪

**元気に暮らそう JF 共済**

チョコ・くらし・カサデ・リコー  
ねんきん・マイコン・なぎさ年金

漁業協同組合・JF共済推進本部  
<http://www.kyosuiren.or.jp>



## 第2回監事会

**漁** 連は、9月26日(月)水産会館漁連会議室において、平成23年度第2回監事会を開催し、原案どおり承認された。

### 附議事項

第一号議案 平成23年度上半期監査計画(案)に関する件  
その他

## 平成23年度上半期監査計画書

### 1.監査基準日

平成23年9月30日

### 2.監査の範囲及び期間等



### (1)会計監査(棚卸品、現金預金)担当、事業所及び日程

担当	事業所名	実施日程	
谷口監事	北浦事業所	平成23年10月3日(月)	午前11時
	土々呂製氷工場	平成23年10月4日(火)	午前9時
	延岡支所	平成23年10月4日(火)	午前10時
溝口監事	本所	平成23年10月3日(月)	午前9時
	ぎょれん丸	平成23年10月3日(月)	
	宮崎事業所	平成23年10月3日(月)	午後1時
近藤監事	南郷事業所	平成23年10月3日(月)	午前9時
	日南製氷第二工場	平成23年10月3日(月)	午後1時
	日南製氷第一工場	平成23年10月4日(火)	午前9時
	日南支所	平成23年10月4日(火)	午前10時

### (2)運営・会計監査(棚卸品、現金預金を除く)担当、事業所及び日程

担当	事業所名	実施日程		
谷口監事 溝口監事 近藤監事	延岡支所	平成23年10月17日(月)	11:00~12:00	
	土々呂製氷工場		13:00~14:00	
	北浦事業所		14:00~15:00	
	宮崎事業所		15:00~16:00	
	日南支所	平成23年10月18日(火)	11:00~12:00	
	日南製氷第一工場		13:00~14:00	
	日南製氷第二工場		14:00~15:00	
	南郷事業所		15:00~16:00	
	本所(指導)	平成23年10月19日(水)	10:00~12:00	
	本所(業務)		13:00~15:00	
	本所(総務)		15:00~17:00	
	本所(総括)		10:00~12:00	
			平成23年10月20日(木)	10:00~12:00

# 「みやざき丸」情報について —研究企画—

今回は、みやざき丸の業務について紹介します。

水産試験場では、みやざき丸により、高度漁海況情報や衛星情報を活用した漁場予測システムの精度向上と、カツオの資源生態の研究等に取り組んでいます。

特に今年は東日本大震災に伴う原発事故と放射能汚染への不安による水産物の風評被害への対応として、本県近海かつお一本釣り船の水揚げする水産物の安全性のPRに一役買った他、気仙沼復興イベント”宮・宮の絆イベント ～帰ってきたど&待ってだば～”に参加し、水産関係者をはじめとする宮崎県民の被災地に寄せる熱い思いを伝えることができました。

## 1. 本県近海かつお一本釣り船の水揚げする水産物の安全性のPR

漁場予測システムの精度向上のための漁場探索調査を行う傍ら、(独)水産総合研究センター中央水産研究所が水産物に含まれる放射性物質を分析するのに併せ、分析試料のサンプリング提供を実施しました。サンプリングの実施海域については、その目的上、北緯37度ラインを意識しつつ、業界船の動きを睨みながら、魚群北上の先端付近で行うことを基本方針として行いました。

サンプリングは、第1回目の平成23年5月17日の千葉県沖(34° 07' N, 142° 21' E付近)から第5回目の平成23年6月29日の福島県沖(37° 21' N, 149° 42' E付近)まで総計5回実施しました(日付が同一の場合1回とカウント)。

結果は、第1回目のビンナガ3尾中1尾と第5回目のカツオからセシウムが検出されましたが、その値はそれぞれ10ベクレル、6ベクレルと暫定基準値の500ベクレルに比べて非常に微量であり、サンプリングの目的である食品としての安全性を確認することができました。

## 2. 気仙沼復興イベント”宮・宮の絆イベント ～帰ってきたど&待ってだば～

第一部の「かつお水揚げ式」、第二部の「元気水揚げ」の二部構成で、これまでの本県かつお・まぐろ漁業への貢献に対する感謝の気持ちと被災へのお見舞い、復興への応援の気持ちを伝えるべく、本県の行政・業界の関係者約60名及び宮城県の関係者60名の合計約110名が参加した標記イベントにみやざき丸も参加しました。

みやざき丸は、第一部の「かつお水揚げ式」では業界船の代表船の役割を果たした他、第二部の「元気水揚げ」では県産品の炊き出しや贈呈のお手伝いに大きな役割を果たすことができました。

現在、気仙沼漁港は、本県船の水揚げもある程度は回復しつつありますが、特に餌の供給などは不十分な状態が続いております。現地の加工施設も含めた水揚げ体制の復興や餌をはじめとする操業支援体制の一日も早い復興を祈念すると同時に、みやざき丸は、かつお一本釣り漁業をはじめ、漁業現場の第一線で本県漁業の振興に尽力してまいりますので、今後とも、関係者のご支援、ご協力をよろしく願います。

「がんばろう 宮城!」「がんばろう 宮崎!」「がんばろう 東北!」「がんばろう 日本!」

当日の様子はコチラ

# 「リッテルボヤのリッテルってどんな意味ですか？」 —副場長兼研究企画主幹・田原—

去る8月30日、いきいき宮崎のさかなブランド確立推進協議会の委員会でリッテルボヤの試食をさせていただきました。マボヤに比べて、えぐみがなく、癖のない、心持ち甘みを感じさせる懐かしい味でした。

私が、リッテルボヤを知ったのは、かれこれ10年ほど前、(財)水産振興協会の事務局長として、延岡市に単身赴任をしていたときでした。当時の延岡市漁業協同組合の岩切組合長(故人)が熱心に取り組んでおられ、浦城支所で試食をさせていただいたのを思い出し、懐かしく感じるとともに、ようやく、ブランドの話を進められるような生産・販売体制が確立できたのかと感慨深いものがありました。表題の言葉は、その試食の時に現組合長の谷口組合長から、突然、尋ねられた言葉です。

その時は、はて…”だいたい魚類などの学名や和名は分類したその人の名前がついたりするものだよな…”とは思いつつ、まったくその辺りを承知していない私としては、いい加減なことも言えず、”調べておきます”としか答えられませんでした。

その後、水産試験場に戻り、インターネットや図鑑を開いて調べてみました。繰り返しになりますが、そもそも、学名などは研究者の名前がつくことが多いのですが、リッテルで検索しますと、明治にドイツから先生として招かれた東大の教授の名前にリッテルさんがいるではありませんか。これは怪しい、何か関係があるのではと思ったのですが、どうにもホヤに結びつく確かな証拠は見つかりませんでした。一方、



そもそもリッテルボヤとはなんぞや？北隆館の「新日本動物図鑑」をみると、和名：りつてるぼや、学名：Halocynthia hilgendorfi f. ritteri (Oka)とあり、凡例の表示には学名は属名・種名・亜種名をイタリック体で、命名者を括弧書きで示しているとありました(表現は凡例に忠実に記載せず、判りやすいように記述を換えています)。へえー、命名者はリッテルではなかったの…それにしても、“Oka”って誰？と新たな疑問が湧いてきました。

以前リッテルボヤの種苗生産研究にたずさわっていた増殖部の担当者の1人に尋ねると…名前の由来そのものの答えは得られませんが、「ホヤ類における同胞種と種分化」(西川輝昭)という文献を紹介されました。その文献を読み進めると、ありました。その中に、イガボヤの分類学略史としてリッテルボヤの記述があったのです。

それは、「日本人初のホヤ類分類学者、丘浅次郎博士は、長軸棘が全身に密に分布する小樽産標本に対してH. igaboya Oka、入・出水管の先端に開く入・出水管孔の周囲のみ限定される八戸と金華山産の標本にH. ritteri、そして、入・出水管の側面先端部のみみられる相模湾産標本にH. houstoniをそれぞれ創設した(Oka, 1906)」という記述と、「和名は、丘博士が「日本動物図鑑」(初版)(1927年、北隆館)で、H. igaboyaに“いがぼや”、H. ritteriに“りつてるぼや”と付けた」との記述でした。

また、「この3新種記載の以前にTraustedt(1885)が入・出水管だけでなくその他の部分にも長軸棘が散在する函館標本に対してCynthia hilgendorfiという新種を設立していたが、丘は当初これと別種として一旦は3種を新種としたものの、後にC. hilgendorfiをH. ritteriと同一種とみなした」といったような記述もありました。そしてまた、「一方、Ritter(1907)は、北米北部海岸からH. okaiというH. igaboya、(和名：いがぼや)と見紛う外見をもった種を記載した」という記述があり、どうもこの“リッテル”氏が名前の由来に関係がありそうということがわかりました。しかし、そもそも、“リッテル”って誰なの？明治期に日本に招かれたリッテルさんとは同一人物なの？違うの？とまた新たな疑問が湧いてきました。ここで、少し話は変わりますが、この文献のタイトルとなっている「ホヤ類における同胞種と種分化」にある「同胞種」と、そもそも「種」とは何かについて少し説明しておきます。当該文献によれば「種」とは「他から生殖的に隔離されている個体の集団である(子孫を残す上で遺伝的に独立しており、他の種と交雑していない集団)」とした上で、「同胞種」とは「生殖的に隔離されており、同所的に棲息するが、形態的にほとんど区別できない近縁な2種(あるいは近縁種の一群)」であるとのことで、要するに「似過ぎていて形態という基準では生殖的に隔離されているかどうか識別が難しい」種ということになり、同胞種は種分化のメカニズムを研究するのに好適な材料とされています。やや専門的になりましたが、ここではリッテルボヤの種分化を説明することが目的ではなく、アメリカと日本で形態学的に識別が難しいほど非常に似た種が棲息しているという事実を認識していただきたいために同胞種の話を書かせていただきました。

さて、先ほどの疑問、“リッテル”って誰？に戻ります。文献に出てくるリッテル氏は、北米北部海岸のホヤを新種として報告していることから、どうもアメリカの生物学者でありそうなこと(この時点で明治期に先生として招かれたドイツ人ではなさそうだと判明)、当該報告が1907年であることから、その時点で少なくともある程度の年齢であることが推測されました。

そこで、インターネットで検索していきますと(すんなり検索できた訳ではないのですが、検索の過程については省略します)、スクリッps海洋研究所(SIO: Scripps Institution Oceanography)の創設者で初代所長のWilliam E. Ritter(ウィリアム E リッテル; 写真)ではないかと推測しました。スクリッps海洋研究所については、同じ米国にあるウッズホール海洋研究所、ラモント・ドハティー地質学研究所と並ぶ世界屈指の海洋研究所とされています(恥ずかしながら、ウッズホール海洋研究所は「沈黙の春」の著者であるレイチェル・カーソンが奉職した研究所として承知していましたが、スクリッps海洋研究所は名前を聞いたことがある程度、ドハティー地質学研究所にいたっては名前すら知りませんでした)。同研究所は、1903年に設立されたサン・ディエゴ海洋生物学会(MBA: Marine Biological Association of San Diego)が前身(1912年にSIBR: Scripps Institution for Biological Researchと呼称)とされており、リッテルはMBAの設立当初から20年間所長を務めており、1891年頃にカリフォルニア大学(パークレー校)の生物学教官になって間もない同氏がカリフォルニア州沿岸の太平洋で生物調査を始め、それが1903年の南カリフォルニア沿岸の生物・水理学調査の遂行等を目的としたMBA設立の契機になったとされています。

※研究所の名前は、スクリッps海洋研究所(MBA1903~1911・SIBR1912~1923・SIO1924~)の支援者で、資金提供者であり、同研究所の発展に多大な貢献をしたスクリッps家の名前を冠したものです。

SIOの初期の研究では、近海の海生動物植物の分類、分布や環境との関係が主題であったとのことで、その集大成として南カリフォルニアの海洋生物便覧というべき“Sea Shore Animals of the Pacific”(Johnson and Snook, 1927)がまとめられており、近海の海生動物植物の分類等の研究の一つとして、リッテルは、1907年に日本の“いがぼや(H. igaboya)”に外見によく似たぼやを学名でH. okaiとして報告したものと思われます。そして、この“H. okai”のokaiは日本のホヤ研究者、丘浅次郎博士の“丘”だと思われます。つまり、ホヤ研究の世界的な交流の中で、学術的な情報が交換され、互いの研究に対する学問的評価と敬意の証として、同胞種とも言えるほど外見に類似性の高い太平洋を挟んだ2つのホヤに対して、日本の種には丘博士が米国の研究者の名前を冠して学名をH. ritteri(1906)、標準和名をリッテルボヤ(1927)と名付け、米国の種には当時の日本のホヤ研究の第一人者である丘博士の名前を冠して学名をH. okai(1907)と名付けたものと推測されました。※学名の種名に人名をつける場合は、人名の部分はそのまま、男性の場合は“~i”、女性は“~ae”という語尾を付けます。

このように、“リッテル”はアメリカの生物学者の名前ということになりますが、その命名の由来には、太平洋を挟んで、日米にまたがる研究者同士のドラマがあり、その命名の過程に対して非常に興味をそそられるものがあります。

以上が私の推測を交えての結論ですが、何か新たな情報があればご教示いただければと思います。



William E. Ritter(ウィリアム E リッテル)

## 9月の動き (県関係)

27日 宮崎県藻場干潟等保全地域協議会通常総会(宮崎市)

## 漁船セーフティラリー南九州2011

実施機関:10月1日(土)~12月31日(土)

**漁** 船の無事故を目指し、昨年に引き続き宮崎県内各漁業協同組合単位による「漁船セーフティラリー」を実施し、漁船乗組員相互による安全意識を啓発していきます。

安全な運航と海難防止にご協力をお願いします。

- 見張りの徹底
- 居眠り運航の防止
- 気象・海象情報の入手
- ライフジャケットの常時着用等事故救命策の確保



ライフジャケット着用は  
あなたの**人生**を  
守ります!

助けたい、助かりたい...。  
常時着用は漁業者の大切な命綱。



目で見て、さわって、漁から帰ったら毎日でも

- ベルト、バックル、ファスナー等の破損はないか?
- すりきれ、穴あき、破れはないか?
- 十分な浮力は確保されていますか?
- 作動索は出ていますか?

作動索は必ず救命胴衣の外に出しておいてください。



- 膨張式ライフジャケットの部品(スプールやマガジン、ポンベなど)は定期的に交換していますか?
- 取扱説明書等にある漏洩試験を定期的に行っていますか?

きちんとメンテナンスしないと、いざという時に役に立たないかも...



漁業者の仲間同士でライフジャケットの着用推進・点検をしよう。

複雑な点検作業は部会などで集まるときに、技術者を呼んでみんなでいきましょう。

問い合わせ先	宮崎県漁連 業務部 購買課	(0985)28-6111
--------	---------------	---------------

## 平成23年度 宮崎県藻場干潟等保全地域協議会通常総会

9 月27日(火)水産会館4階第1研修室において、平成23年度宮崎県藻場干潟等保全地域協議会通常総会が行われた。

役員を選任については、県の組織改編による役員の変更であり、また、活動組織の紹介では、各市町の担当者より、各活動組織の活動状況について、報告があった。

全議題とも、異議なく承認が得られた。

- (1)平成22年度事業報告、収支決算について
- (2)平成23年度事業計画、収支予算について
- (3)役員を選任について
- (4)保全活動の紹介
- (5)その他



## 平成23年度宮崎県定置漁業協会通常総会

9 月22日(木)水産会館4階第1研修室において、平成23年度宮崎県定置漁業協会通常総会が行われ、全議題とも異議なく承認が得られた。

役員改選については、前年度と変更点はなし。

報告事項として、水産試験場より、ブリの標識放流結果によるブリの回遊や産卵場の研究報告があった。

### (1)議題

- ①平成22年度事業報告及び収支決算書の承認について
- ②平成23年度事業計画及び収支予算書(案)の承認について
- ③平成23年度会費及び徴収方法(案)について
- ④役員改選について

### (2)報告事項

ブリの標識放流Vについて

### (3)その他



JF宮崎漁連直営店

# ぎょなん丸

魚乃里

**宮崎県水産物  
ブランド品が  
食べたい!**

【営業時間】  
 【直売所】月～木 AM10:00～PM5:30  
 金～日 AM10:00～PM8:00  
 【レストラン】  
 昼の部 月～木 AM11:00～PM2:30(昼のみ)  
 夜の部 金～日 AM11:00～PM2:30  
 PM 5:00～PM8:30  
 【問い合わせ】  
 〒880-0858 宮崎県宮崎市港2丁目6番地  
 TEL.0985-28-6114

# 全近かつ・まぐろ問題検討会について

**全** 国近海かつお・まぐろ漁業協会(会長 三鬼則行)は、平成23年9月16日(金)東京都千代田区神田 フォーラムミカサ8階会議室において、第2回近海まぐろ漁業問題検討会を開催した。協議内容は以下の通り。

**1.WCPFC条約関連の対応**

- (1)WCPFC条約オブザーバの対応について
  - ・オブザーバ乗船の実施スケジュール
  - ・オブザーバ受入船への協力慰労金の是非
- (2)科学委員会の結果報告
  - ・メバチ・キハダ・カツオの2011年の資源評価が示された。
  - (3)北委員会の結果報告(9/6-9 於札幌)
    - ・クロマグロ
    - ・北太平洋ビンナガ
  - (4)本年の今後のスケジュール
    - ・遵守取締委員会(9/28~10/4 ポナペ)
    - ・年次総会(12/5-9 パラオ)
    - ・北緯20度以北の生鮮漁船オブザーバ

**2.福島原発事故に伴うまぐろ類の放射能測定検査への対応**

**3.その他**

- ・南太平洋島嶼国の動向
- ・漁船マルシップ日本人定員の削減への取り組み



# 宮崎県旋網漁業組合第3回役員会

**宮** 崎県旋網漁業組合(会長 菅野教義)は、9月13日(火)延岡ロイヤルホテルにおいて第3回役員会を開催した。

協議内容は以下の通り。

- (1)石油・天然ガス音波探査について
- (2)平成23年度日向灘沖掃海艇訓練について
- (3)大分海区と宮崎海区の旋網漁業の相互入会について
- (4)その他

# 9月の動き

6日	内部資材担当者会議	20日	平成23年度シーフード料理コンクール
9日	内部石油担当者会議	22日	平成23年度 宮崎県定置漁業協会通常総会
13日	内部製氷担当者会議	26日	平成23年度第3回監事会
	宮崎県旋網漁業組合第3回役員会	26~30日	全近かつ協/バリ島視察
16日	第2回近海まぐろ漁業問題検討会	27日	平成23年度宮崎県藻場干潟等保全地域協議会通常総会
	沿岸くろまぐろ漁業の届出制導入に係る説明会		

救命衣、着用していますか?

資材の購入は系統へ  
漁協・漁連・全漁連

お問い合わせ先  
宮崎県漁業協同組合連合会業務部 TEL 0985-28-6111

RELATED ORGANIZATION